

# 「秋田大学学生海外派遣支援事業」 帰国報告書

記入日：2011年7月27日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修  
氏名：山田未夏  
派遣先大学：黒龍江大学（中国）  
在籍身分：交換留学生  
派遣期間：2010年8月～2011年7月  
渡航年月日：2010年8月25日  
帰国年月日：2011年7月10日

## ○ 研究・学習概要及び今後の勉強計画

一学期、2科目の必修を除き、授業は自分で選択が可能であり、また得意科目があれば、その科目だけ上のクラスで授業を受けることもでき、自分のレベルに合わせて、読む力、聞く力、話す力を上げ、しっかり学ぶことができました。

今回の留学を通して、中国語に対する関心が更に深まり、4年次では中国語に関するテーマで卒業論文を書きたいと思っています。卒業後もできれば、中国に関する仕事につき、中国語の勉強を続けていきたいと思っています。



## ○ 生活面について

外国での生活はわからないことや戸惑うことの連続です。最初、中国に行ったばかりのころは、中国語も上手くしゃべれず、知らないことだらけで、大学の中国人の友人にたくさん助けてもらいました。

大学の寮はとても綺麗でした。一部屋にトイレ、バスルーム付きで、ワンフロアに一つ大きな厨房があり、だれでも器具があれば調理可能です。

食生活に関しては私の場合は寮の厨房で料理することが多かったのですが、大学の周りにはご飯屋さんが立ち並んでいて、また屋台もあるので、毎日外で食べている人もいました。だいたい15元あれば、一食外で食べることができます。外で食べるほうがもしかしたら、自分で作るよりも安いくらいかもしれません。これは日本との違いだと思います。



しかし、もし留学先に厨房があるなら、厨房での料理もおすすめしたいです。厨房では色々な学科、学年、クラスの人が料理しているので、自分のクラスでは知り合うことのできない人とも知り合うことができます。また厨房で料理を作っていると、時々となりで作っていた人がおすそ分けをくれたり、ご飯に誘ってくれたりしました。料理をしながら、お互いの国のことを聞いたりして、仲良くなることもでき、とても楽しい時間を過ごすことができました。またほとんどの人が自国の料理を作っているのです、その国の味を知ることもできる貴重な体験だったと思います。

### ○ その他留学全般にわたる感想

今回の留学で私は語学だけではなく、様々なことを考え、知ることができたと思います。私は日本を離れて中国に来て、逆に日本のことをたくさん考えさせられました。精読の授業では、先生がテーマを与えて、国ごとに生徒が自分の国について、その場で発表する機会があり、自分の国と他国の違いもいくつか知ることができました。就職について、結婚について、大学について、風物について、様々なことを話しました。自分が普通だと思っていたことも、本当は他国と違っていることもあり、外国に行って、自国に対する知識も増えたように思います。

また、留学中、私は自分が日本人という枠組みに存在することを強く意識させられました。私が普段気にしていなくても、外国の人から見ると、私は日本人でした。自分ではない日本人としてのイメージというものを感じました。そのことで、興味を持って話しかけてくれる人や、また私の留学先が北方だったこともあり、好ましくないと思われることも何度かありました。このことは歴史と現在と人についても考えさせられる機会になりました。

私は留学先でさまざまな人に会いました。振り返ってみると、優しいひとにたくさん出会うことができたように思います。黒龍江大学でできた友人はもちろんのこと、教えてくださった先生方、時々仕事のついでに料理の仕方を教えてくれ、寮内情報を教えてくれる掃除のおばちゃん、ちょこちょこ話しかけてくれる寮のフロントのお姉さん、道でたまたまであった人など、ある人は道に迷った私を外国人だと知って、自分もその場所を知らないのに、一生懸命探してくれました。私の留学は様々な人に支えられて成り立っていたと感じています。

全てが楽しいことばかりだったわけではありません。大変なこともありました。でも、行ってよかったと自信をもって言うことができます。このような機会を与え、支えてくださった方々に感謝しています。

